

まんさく

第263号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



皆さんから必要とされる短期入居。体制を整えた暁には再稼働させる所存です。



平成5年に出発してから27年、町の皆様の在宅介護の傍らで、少しでも日常の荷物を降ろし休める時間が持てますようにと、短期入居事業を実在させてきました。皆様に必要として頂ける中でのお休みは心苦しい限りですが、人員体制が整うまでお待ち下さい。宜しければ、人員の一人としてお待ちしております。

お年寄りの暮らしの質確保に向けて
短期入居事業、しばらくお休み致します
《令和3年4月1日より》

お年寄りの暮しのよりよい事を探し続けます

【在宅】「①居宅支援・企画部門」 ☆細川 浩☆

法人キーワード	2020年度共通のキーワードは『観る』					
2020年度上半期のイメージ	テーマ	ともに観る〔観て頂く〕				
	理想像	<table border="1"> <tr> <th>目 標 ①</th> <th>目 標 ②</th> </tr> <tr> <td>①非常時に備える。</td> <td>①お年寄りの気持ちを察する。</td> </tr> </table>	目 標 ①	目 標 ②	①非常時に備える。	①お年寄りの気持ちを察する。
	目 標 ①	目 標 ②				
①非常時に備える。	①お年寄りの気持ちを察する。					
具体的な取り組み <small>(いつ、何を、どのように)</small>	<table border="1"> <tr> <td> ①防災訓練の実施 ⇒6月〔日中〕 ⇒3月〔夜間〕 ②防災研修会実施 ⇒9月 ③防災委員会の開催 ⇒備蓄品と施設内点検 </td> <td> ①利用者・ご家族のお話しの耳を傾け、その方の思い・気持ちを察しながらプラン作成・支援を行う。 </td> </tr> </table>		①防災訓練の実施 ⇒6月〔日中〕 ⇒3月〔夜間〕 ②防災研修会実施 ⇒9月 ③防災委員会の開催 ⇒備蓄品と施設内点検	①利用者・ご家族のお話しの耳を傾け、その方の思い・気持ちを察しながらプラン作成・支援を行う。		
①防災訓練の実施 ⇒6月〔日中〕 ⇒3月〔夜間〕 ②防災研修会実施 ⇒9月 ③防災委員会の開催 ⇒備蓄品と施設内点検	①利用者・ご家族のお話しの耳を傾け、その方の思い・気持ちを察しながらプラン作成・支援を行う。					



2020年度上半期検証	<p>『目標①について』 ⇒年2回の防災訓練の実施において、日中訓練を1回行う事ができた。〔10月〕 ⇒今後、感染対策や職員がより参加できる時間等を配慮しながら、防災研修会・防災委員会の開催が必要とされる。</p> <p>『目標②について』 ⇒居宅介護支援計画利用者のご逝去や施設入居に伴い、登録者が減少となる。残る利用者への目標達成のための継続支援は必要。</p> <p>【結果目標】 上半期と変わった箇所は、<u>下線</u>を入れて掲載。</p>
-------------	--



2020年度最終的イメージ	テーマ	ともに観る〔観て頂く〕				
	理想像	<table border="1"> <tr> <th>目 標 ①</th> <th>目 標 ②</th> </tr> <tr> <td>①非常時に備える。</td> <td>①お年寄りの気持ちを察する。</td> </tr> </table>	目 標 ①	目 標 ②	①非常時に備える。	①お年寄りの気持ちを察する。
	目 標 ①	目 標 ②				
①非常時に備える。	①お年寄りの気持ちを察する。					
具体的な取り組み <small>(いつ、何を、どのように)</small>	<table border="1"> <tr> <td> ①防災訓練の実施 ⇒3月〔夜間〕 ②防災研修会実施 ⇒〔<u>感染情報・対策考慮</u>〕 ③防災委員会の開催 ⇒備蓄品と施設内点検 </td> <td> ①利用者・ご家族のお話しの耳を傾け、その方の思い・気持ちを察しながらプラン作成・支援を行う。 </td> </tr> </table>		①防災訓練の実施 ⇒3月〔夜間〕 ②防災研修会実施 ⇒〔 <u>感染情報・対策考慮</u> 〕 ③防災委員会の開催 ⇒備蓄品と施設内点検	①利用者・ご家族のお話しの耳を傾け、その方の思い・気持ちを察しながらプラン作成・支援を行う。		
①防災訓練の実施 ⇒3月〔夜間〕 ②防災研修会実施 ⇒〔 <u>感染情報・対策考慮</u> 〕 ③防災委員会の開催 ⇒備蓄品と施設内点検	①利用者・ご家族のお話しの耳を傾け、その方の思い・気持ちを察しながらプラン作成・支援を行う。					

コロナ禍と人手不足という苦難が続く中でも

【在宅】「②地域密着型部門(ひなたぼっこ・湖畔の宿)」 ☆刈田光太☆

法人キーワード	2020年度共通のキーワードは『観る』	
2020年度上半期のイメージ	テーマ	お年寄りの人間性(内面)を観る。
理想像	目標 ①	目標 ②
	①お年寄りの表情や気持ちの変化を観る力を養う。	②地域とのつながりを保てるよう情報を得ていく。
具体的な取組み(いつ、何を、どのように)	①お年寄りとの日々のコミュニケーションの中で変化に気づき、職員間で共有する。 ②外見から観える所だけでなく、お年寄りの心や感情を観る事ができるようにコミュニケーションをとる。 ③できる事・できない事を見極め、お年寄りの意欲を引き出す。	①新型コロナウイルス流行に伴い、お茶会サロンは休止している。メンバーの方々の身体の状態を把握するために、チェックリストを活用していく。



2020年度上半期検証	<p>『目標①について』 ①お年寄りの変化に気づいた時は、職員みんな話して共有した。 ②落ち込んでいる人、いつも口数の少ない人などに寄り添い、話を聴き、会話をした。 ③お年寄り自身ができる事を、職員がやっておいてしまった事もあり、気をつけたい。 ※自分自身の視野の狭さに気づいた。</p> <p>『目標②について』 ⇒コロナ禍の春の段階では、自粛や中止ムードの最中にあり、当事業所の行事や事業等も未実施内容が多い半年だった。コロナ禍でできる事をしっかり整理して、やれる事は取り組んでいきたい。</p> <p>【結果目標】 上半期と変わった箇所は、<u>下線</u>を入れて掲載。</p>
-------------	---



2020年度最終的イメージ	テーマ	お年寄りの人間性(内面)を観る。
理想像	目標 ①	目標 ②
	①お年寄りの表情や気持ちの変化を観る力を養う。	②地域とのつながりを保てるよう情報を得ていく。
具体的な取組み(いつ、何を、どのように)	①お年寄りとの日々のコミュニケーションの中で変化に気づき、職員間で共有する。 ②外見から観える所だけでなく、お年寄りの心や感情を観る事ができるようにコミュニケーションをとる。 ③できる事・できない事を見極め、お年寄りの意欲を引き出す。	①お茶会メンバーからの再開要望が多く、再開に向けて準備をする。 ②運営推進会議委員、民生委員、保健委員等と連携を図る。 ③地域行事へ積極的に参加する。

「たより」 賜いましたお手紙のご紹介です♪

町外から西和賀高校に入学され、3年間の高校生活を無事に終えて巣立った高校生たち。町内の高校生として、地域に“光”を与えて下さいました。また、文武両道の姿勢で躍動してくれた皆さん、本当にステキでした♪ありがとうございました。

この度、その中の親御様から頂戴致しましたお便りに、目頭が熱くなった編集委員たちもご購入下さる皆様と想いを共有したくなりまして、ここでご紹介させていただきます。

『西和賀の奇跡』 住田野 俊朗

「 本正先生の指導を受けたい...」
 その一心で学区の壁を越えて入学し、下宿生活を送りながら汗を流した3年間が終わろうとしている。本来なら集大成を見せるはずだった今年、夢に見たインターハイはコロナ禍により史上初の中止に；ダダ下りのモチベーションをいかにして保っていたのか？体育科もない、特长生もいない、雪深い地域の小さな高校の陸上部は、令和2年度岩手県陸上競技選手権大会女子1600メートルで奇跡を起こす。並みいる強豪校を抑え、最後の大会で金を手にしたのだ。思えば、縁もゆかりもない、ただ一人の知り合いもない中でスタートした西和賀の生活を、この町とこの町の人々は優しく、安全に見守ってくれました。親として、ありかたの言葉では言い尽くせないご恩を感じています。
 町と指導者と、志を同じくした仲間を支えられた時間があったからこそ成し遂げた奇跡。それこそが、西和賀の地に残した我が娘の軌跡です。有難う御座いました。



入学式と卒業式の貴重な写真！並びも決めポーズも一緒というナイスな一枚ですね(^_^)

職員募集！

資格や経験値はほぼ不問！まずはお話しを…。

- ① 調理職員 【お年寄りの食を支えます】
- ② 介護員 【お年寄りの暮らしを支えます】
- ③ 看護師 【お年寄りの健康を守ります】

【0197-84-2526 事務課長・氏家】



想... 災害を捉える 東日本大震災10年スペシャル①

『運命に耳を澄ます』 相馬正西寺・八幡朋行さん

3.11から丸10年。連載中の八幡朋行さん（相馬市）より、連載1年9カ月の集大成として思いの丈を語って頂きます。ぜひ、ご愛読ください。

運命に耳を澄ます

去る2月13日23時8分、寝静まっていた相馬の大地は激しく揺れました。東日本大震災から10年を目前に、震度6強という地震が発生しました。地球誕生何億年の営みからすれば、10年寸分違わぬタイミングで、同規模の地殻変動が起こった恐怖と、諸行無常の厳粛さを改めて体感しました。

なぜ私たちは、次から次へと苦難に遭うのでしょうか。

250年前に生まれた作曲家ベートーヴェンは、こう残しています。

「人間はまじめに生きていく限り、必ず不幸や苦しみが降りかかってくるものである。しかし、それを自分の運命として受けとめ、辛抱強く我慢し、さらに積極的な力強くその運命と戦えば、いつかは必ず勝利するものである。」

大作曲家でありながら、彼は生涯の半分以上を聴覚の働かない世界で、運命が扉を叩く音を聞きながら、内なる音に聴覚され、音楽として紡ぎました。人生を恨むでもなく、誰かに嫉妬するでもなく。むしろ生まれたから苦しみがあり、不幸

八幡朋行(最終稿)

な境遇も。それはまじめに生きていく証」と頷いたのです。決して人生における迷われない定めや、「運命だから仕方ない」と断念することとは解していません。

運という字は、「はこぶ、めぐらす」との意です。運命がゆえに、この生命の上に運ばれ、それを自ら積んで動かし、機会に依りて思考をめぐらせる。まさに人生におけるめぐりあわせですから、めぐりあわせと生き方の数だけ可能性に満ちあふれているのでしよう。

だからこそ真摯に受容し、冷静に、自覚的に、ときには辛抱強く、仏さまの促しを賜わって生きる。そこに自身の使命があるということです。そして使命を担った末に、誰かが、「生まれてきてよかったです」と言いたいのです。むしろすると、そのことをベートーヴェンは「勝利するもの」と語ったのかも知れませんね。

震災から10年、人とり出会いを通して、めぐりあわせを自分なりのかたちで受けとめ、丁寧に歩むことの大事さを学びました。

これまで数回にわたり、この様な貴重な紙面を頂戴し、福島県の現状を聞き届け想いを馳せていただき、誠に有り難うございました。

合掌

八幡朋行さん、約2年弱の間、大切なメッセージ、おかげさまでした。



二月十三日の福島県沖地震により、山門の一部が倒壊した

今月の登録者の方々
17名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

ようやく春を感じる時節…「ひなたぼっこの日常」



おかげさまでした

寄贈

- ★ 高橋 トシ子 様 [間木野]
- ★ 西和賀町商工会女性部 様
- ☆ 山口 葉子 様 [奈良県]
- ☆ 照井 和江 様 [北上市]
- ☆ 菅原 イネ子 様 [川尻]
- ☆ 小松 陽子 様 [秋田県]

寄附 ボラ

- ★ 小専商店 様 [湯本]
- 散髪ボランティア (2/2)
- ☆ 藤田 陽子 様 [川尻]

大寿会へのご支援

光寿苑13年の暮し…最期は愛するご家族と



高階ツキノさん【93歳】

いつもニコニコ笑顔のツキノさん。加えてご家族や職員に対する優しい想い、真っすぐな気性が印象にとっても残っています。大好きな孫さんにも会えてよかったです。今まで本当にありがとうございました。

《担当・工藤美加子》

『今生より 往く』

第88回

第88回目も引き続き、家族会事務局長をお願いしております藤原輝夫氏より一筆頂戴致しました。



母トシ子のこと④

早く七くなった父は、よく働きよく気配りもできる人で、地域の良い仲間にも恵まれ、また、夫婦そろって楽しい上才参りができたことは、50歳という若さで逝った父にとっても、そして、残された母にとっても良い思い出になったと思います。

父は農業の傍ら、土方（建設作業員）に従事していました。昭和51年11月23日、紫波郡都南村の下水道終末処理場建設現場で、不幸にも作業中に足場を受け、入院。治療はすべてを託しました。しかし、その甲斐なく、11月30日午前8時、帰らぬ人となりました。

父との思いもよらぬ急な別れは、母にとってどれほどの悲しみであったか；私もはかり知ることはできません。そんな中トシ子は、旦那の逝去後の昭和50年代後半より、琴城流の火正琴の会に入り、仲間と一緒に活動し、村・町の文化祭、会所属する県

元気です！家族会♪

▲事務局長・藤原輝夫▼

の大会や東北大会等へもよく出場していたもので、それが趣味であり、生き甲斐にもなっていたのではないかと私は思っています。



イラスト：1000

オンライン面会は、様々なトラブルもありつつも軌道にのってきている。耳の遠いお年寄りたちにとっても、また認知症の深いお年寄りにとってもご難儀はお掛けしているが、この様なほっこり場面にも遇える。でも、やっぱり早く対面できますよ。

がらくタな人々

《名嘉友美》

昨年末、NHK・FMシ
アターで放送されたラジオ
ドラマミ。

大都会の片隅。今にも崩
れそうな露店が立ち並び汚
い市場。そこには、社会からはじき出された

人々が集まってくる。区役所の計画で近々取
り壊され、近代的な街に生まれ変わることに
なっているが、その街に集まる人々は、取り
壊しに反対し署名運動をしている。

区役所に勤める高橋は、身分を隠して市場
に出掛けた。『ジイちゃん』という老人、ヒ
イラギちゃんという少女、がらくタ屋のサダ
さん。ジイちゃんは高橋に、この店で売って

第2回 マルタン房

自然法爾 [じねんほうに]

いる汚いコップを買うことを
勉める。『これで自由に君の
思い出をつくってみてね』と
いう。高橋君に『って相応し
い物語りを。高橋は『つい
ていけない』と思う。嘘の思い出をつくった
って惨めなだけだ。

『事実を認めなければ何も始まらない』と
思いながらも、『オレは人と関わることに向い
ていない』と自己嫌悪に陥る彼に、ジイちゃ
んは言う。

『間違ったりすることか、そんなに悪いこと
かぬ。私はいつでも、出会わないよりは出会っ
て良かったって思うようにしてるんだ。』

おわりに

この3月11日で10年になる。平
素から光寿苑での看取りに関わり、
また僧侶としてのお見送りと、い
ずれもお一人ずつ丁寧に聞かせ
て頂いてきた中で、圧倒的数の命
の終わりという現実(まじまじ)に直面した私
は、『これまででの看取りもお見送
りも小さい事しかやれてなかった
のか? 小さい事でしかないのか?』
と苦悩し続けていた事を思い出す。
その後の活動や出遇えた被災地
の方々とのご縁に触れゆく中で、
ハツキリした。お一人お一人に丁
寧に向きあうことは決して小さい
ことではない。逆に小さい心の私
が、別れという縁を通じて繋がり
生きていく大いなる感性に遇う時。

※自分の立っている場所に足をしっかりと...